

土崎小、土崎南小学校統合検討委員会小委員会におけるとりまとめ

土崎小、土崎南小学校統合検討委員会小委員会

これまでの検討委員会での協議を踏まえ、小委員会として、以下のとおり、論点を整理した。

1 学校には、一定の規模が必要であるという意見

- ・ 1学年1学級の土崎小を敬遠し、隣接する港北小に児童が流出すると、今後、ますます小規模化が進む恐れがある。
- ・ 小学校6年間を同じクラスで過ごす人間関係が固定化するので、クラス替えができる学校規模が必要である。
- ・ 子どもの成長を考えた場合、様々な人と交流ができる環境が必要であり、そのためには1学年2学級以上が望ましいと考える。

2 小規模校でもよいのではないかという意見

- ・ 1学年1学級であっても、いじめに気づかない場合があるが、小規模校では、先生の目が行き届き、いじめの抑止力につながると考える。
- ・ 勉強の面だけを考えると、少人数の方が手厚い指導が行われるという利点があると思う。

3 その他

- ・ 中学校の統合に時間がかかるとすれば、まずは、小学校の統合を先に進めるべきと思う。
- ・ その場合、進学先である中学校が2つに分かれるという課題が残るため、今から小学校の学区を整理する必要がある。
- ・ また、お祭りなどの地域の特性を活かすためにも学区の見直しは必要と考える。

【小委員会でのとりまとめ結果】

子どもたちの教育環境を優先し、中学校の統合を待たずに、小学校の統合の検討を進めたいと考える。

ただし、進学先の中学校の課題解決やお祭りなどの地域の特性を活かした学校配置をするためには、小学校の統合を機に学区を整理する必要がある。

参考

小委員会の開催状況

開催日	開催内容
令和3年3月4日(木)	第1回小委員会 ・ 検討委員会での協議の論点整理
4月中	検討委員会への報告資料とりまとめ
5月28日(金)	第4回土崎小、土崎南小学校統合検討委員会
7月以降	第1回土崎中、将軍野中学校統合検討委員会